

IEEE Asian Test Symposium (ATS 2013) 参加報告

台湾 宜蘭県礁溪 2013年11月17日-21日

- 群馬大学 小林・高井研究室より下記4名が参加
群馬大学内地研究員（鶴岡高専 准教授）加藤健太郎先生
博士前期課程 呉明輝（ゴメイキ Wu Minghui） 李恩思（リオンシ Li Ensi）
教授 小林春夫
- この国際会議の重鎮（前年度に新潟開催のATS2012のGeneral Chair）の
群馬大学客員教授 畠山一実先生もご参加され、ご一緒させていただく。
- 加藤先生 下記発表、李恩思 共著者
（半導体理工学研究センター（STARC）との共同研究成果）

[1] **Kentaroh KATOH**, Yuta DOI, Satoshi ITO, Haruo KOBAYASHI, **Ensi LI**, Nobukazu TAKAI,
Osamu KOBAYASHI,

“An Analysis of Stochastic Self-Calibration of TDC Using Two Ring Oscillators”,

IEEE 22nd Asian Test Symposium, Yilan, Taiwan (Nov. 18-21, 2013).

- 呉明輝 下記発表
（アドバンテスト&小林研究室社会人博士修了 浅見幸司さんとの共同研究成果）

[2] Ru YI, **Minghui WU**, **Koji ASAMI**, Haruo KOBAYASHI, Ramin KHATAMI,

Atsuhiko KATAYAMA, Isao SHIMIZU, Kentaroh KATOH,

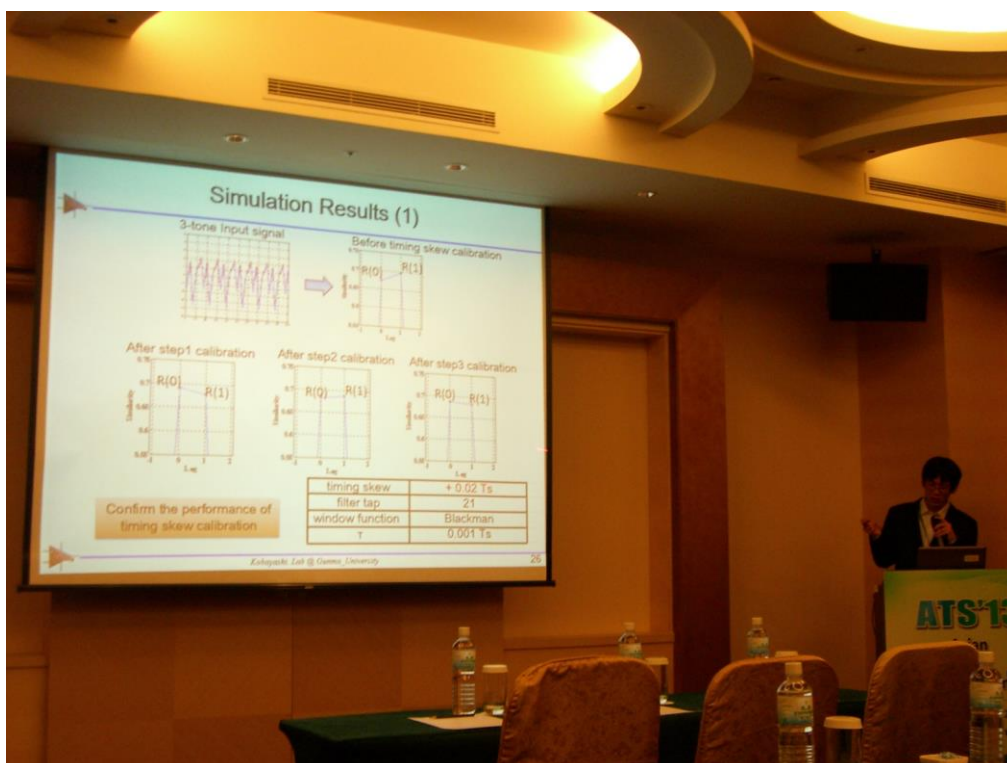
“Digital Compensation for Timing Mismatches in Interleaved ADCs”,

IEEE 22nd Asian Test Symposium, Yilan, Taiwan, (Nov. 18-21, 2013).

- 産業界との共同研究により、大学の工学研究が生きたものとなる。
「世間は生きている。理屈は死んでいる。」（勝海舟）
- 小林 ATS2013 プログラム委員、高速入出力インターフェーステストの座長
（プログラム委員長の黄俊郎先生（国立台湾大学）より招待される）
- 学会参加での成果
研究成果の対外的アピール、
良い発表がたくさんあり先端技術情報収集（直接話を聞いてわかることが多々あり）
研究者との交流（海外の研究者は視点が異なることあり）、知り合いが増える
学生への教育、学会活動への貢献 等
- 中国からの留学生 李恩思は華僑大学、呉明輝は廈門理工学院で学部4年までの教育
を受けているが、両大学とも台湾の対岸の中国 廈門市にある。（偶然である）
両者とも台湾は初めてとのこと。学生の学会参加費用は
群馬大学大学院生海外派遣助成から補助を受けており、感謝いたします。
- 台湾はLSI テスト関係の産業・大学での研究活動は活発である。



学会会場のホテル



加藤先生の発表



吳明輝の発表





レセプション



プレナリートーク



学会でのソーシャルイベント



バンケットでのアトラクション



李恩思（左） 吳明輝（右）

(写真提供 鶴岡高専 加藤健太郎先生、文責 群馬大学 小林春夫)